

第4回名張市農業マスタープラン策定委員会

1. 会議日時 平成29年10月20日（水）午後3時30分～
2. 会議場所 名張市役所2階庁議室
3. 出席委員 委員長：石田正昭 副委員長：山崎祥生
石田みゆき 村上高敏 岩寄隆司 高波秀彦 藤田初美
前川良文 井上早織 杉本一徳 城出佳信
4. 欠席委員 前田麻由美 田上堅一
5. 事務局 室長：吉岡昌行 農業振興係長：今村典義 主幹：井ノ上教昭
主任：松村大介 室員：小笠原一豊 室員：森下亜季

議事

委員長 事項書にのっとり進めていきたいと思います。資料の説明について事務局お願いします。

事務局 資料説明

委員長 ありがとうございます。ご意見等あればお願いします。はい。どうぞ。

井上委員 皆さんこんにちは。実は今日この会議の前に一度お伺いして、マスタープランの在り方という所で、最終確認という事でお聞きさせてもらったんですけど、今から覆したり、議論するとかはしないと思うので、最終的に言いたい事は全て申し上げたと思います。内容に関してはこれですごく良いものが出来ているんじゃないかなと思いますし、色んな意見を積み上げながら良いものが出来ているのかなと思います。商売をやっていた私からすると、全体的に抽象的だなんて思うのと、具体的にじゃあどうして行くのかっていう部分が薄くて、これは意見というよりは、せっかく出てきた前回の意見が非常に良かったですし、できればこれからはそれを具体的に構築していくために、こういう議論する場所があるかすごく疑問です。特に若手農家さん同士の接点というのを、これを機会にぜひ作っていただいて、なにから構築していくかということ積極的に議論出来る場所というのを、ぜひ開催して頂きたいなという風に思います。

委員長 ありがとうございます。そうですね。やはり議論する場を作って、それから実際にどういうのを作るかということが重要になってくると思います。

事務局 どうもありがとうございます。このマスタープランの性格上、非常にその方向性を示すっていう様な計画となつてございます。方向につきましては、それぞれアクションプラン的な施策っていうのが展開されてくるっていう事になって参ります。具体例につきましてはそれぞれの個別の動き方という形で個別計画の作成っていうのがおこってくるという事でございます。それと今回、議論できる場という様なお話を頂戴しました。これにつきましては、改めてご検討させて頂いて、こういったお話が出来る場、今現在、他の組織の中であったりする訳ではございますが、これだけ広範囲の方が集まって頂いてるっていうものは少ないかも分かりません。そういったものも含めまして、検討の方進めたいなという風に思います。

委員長 ご提案ありますか？

井上委員 全員が、私の様にアルコール抜きで直球で言える人も少ないかもしれませんので、意見交換会と称した飲み会がいいと思います。この間ある農家さんが、ニホンミツバチの蜜をまたやりたいっていう事で教えてくれって言われたんですけど、地元の農家さんが教えてくれって言われる事がまずもってないので、もう嬉し過ぎて巣箱もお渡ししました。もう一緒に手伝ってしてるんですけど、その時に最後に蜜を搾ったんです。蜜を搾ってこれを機会に一緒にやりませんかって言ったら、直球で断られたんですけど、そもそも農家をやってる人たちは、一緒にするとかそういうのが苦手な人が多いんです。本当かどうかは分かりませんが、自分のやり方にプライドを持っているのでっていう事をおっしゃってました。私はどっちかっていうと都会から来て一緒に仲良くお酒を飲みながら議論してって思ったんですけど、そのベースが違うのかなと思うとなるほどって思ったんです。なので今後も何かを一緒にやるとかっていう事を先に聞き、それぞれが異業間でも集まる場所があつて、何かをやりましようとなった時に活気がなかったら集まらないかなと思いました。

委員長 コミュニケーションをとる事が大事だと思います。そうやっていくうちに、お互いに一緒にやりましようっていう話も出てくると思うんです。

事務局 今日も農業経営者クラブさんお越し頂いてます。経営者クラブさんが、色んな農

業に携わって頂いてる方とか、若い方々集めて頂いて、正に懇親会みたいなそんな場を作って頂いたりっていう様な事もして頂いたりしてくれています。また市の方でも去年、若い農業者ばかり集めて、ちょっとした懇親会をさせて頂いてます。青年就農者であるとか、もしくは若い農業者の方々に入って頂いて、そういうことをさせて頂いたりする場も作らせて頂いてます。それぞれまた発展形という様な形での会議が欲しいという様な指摘でございますので、その後、それぞれの組織自体の繋がりを持てる様な場っていうのが出来てきたという事でご提案頂いてるという風に思わせて頂いてますので、そういった場も一度また考えてみようかなという風に思わせて頂いてる所でございます。

城出委員 私、経営者クラブの会長させてもらっていて、メンバーも私とで20人いるんですけど、だんだん仕事も出来なくなって、後継者の方に去年集まって頂いた訳なんですけれども、定期的に寄って頂いて、そういった輪を広げていく様な場を作って頂いたらと思います。我々も、もう10年もしたら解散に及ぶので、そういった長い付き合いでお互いに信用もしてるし、さっき言ってくれた様な一匹狼なんですけど、そういった中で和気あいあいと、色んな情報の提供をしたり色々吸収したりしてやってきたので、そういう良い仲間を若い方にも作っていただいたら良いと思います。またそれも定期的に寄って頂く様なご指導をして頂きたいと思います。

高波委員 山崎さんを会長にして担い手育成会を作って、年に1回ぐらい集まって、農業経営者クラブと、若い子は少なくなってますので一緒にやっています。そうしたら繋がりもできるし、若者同士で話も出来るんじゃないかなと思います。だから、若い子も自分の殻に閉じこもってしまうから、出来るだけみんなで育てていかないとだめだと思います。市の方もそういう予算をとってもらって組織を作って、みんなで寄って一杯飲みながら、話しができればそれで良いと思います。みんな要旨も違うし、ただ人との繋がりをもてたらと思います。

井上委員 最近の傾向で、うちのスタッフもそうなんですけど、あんまり深入りしてほしくないと言われるんです。若い人達は自分たちのプライバシーとかがすごく強くて、良かれと思って会社が全額出して、飲み会っていうのを津の方にもほ場がありまして、一生懸命やってる津のスタッフを誘った時に言われたのが、飲み会が1番苦痛なんですって、それだったらお金欲しいって言われたんです。あとは関係ない人達の話をして面白くないって言われたのと、そういう時間があつたら農場で仕事したいって言われたんです。ただこんこんとお話したんですけど、会社の中の管理をしていく人っていうのは、それじゃだめというか、コミュニケ

ーションが苦手なんじゃないですか？っていう議論になったんですけど、自分はこのスタイルなんだという事で歩み寄れなかったんです。でもその方非常に優秀な方だったのに今月で辞めたいって言って、うちもすごく痛いんですけど、そういう方が多いからあんまり積極的にいってもだめだなと思います。でも、じゃあ1人でやっていけるのかというと1人で悩んで、結果閉じこもってしまうという部分では難しいと感じます。どうしたら良いのか分からないというか、同じ農家として何か出来たんじゃないかなって思うときもあります。

杉本委員 すいません。今のお話で言いましたら、今は農業を振興していくっていう事じゃなくて、特に農業してる方については、なかなか情報が入ってきにくいっていう事もあるかもしれませんので、出来るだけその辺は市役所でいったら産業部の方が、色々な情報とかを流して行ける様な形で、そんな中からこれだったら1回参加してみようかなとか、ちょっと広い所で経験して頂いて、最終的に農業してる人達の繋がりになっていく様な、そんなちょっと長い目で見ながら、産業部の方も注意させてもらおうと思います。

高波委員 そういうことじゃなくて、市役所から文書が来ても開けないです。それが現実なんです。それよりも毎日の仕事に追われていて、1人でやってて手がまわらなくて、毎日食べていくのに精一杯なんです。団地の子達が自分でやってて、あれもしたいこれもしたいって言うんですけど、そんな出来ないって言うてるのに、もっと田んぼ貸してほしいと言ってきて貸してます。

岩寄委員 自分の実益性だけしか見ないで、自分の関係が間接的に接してたら、自分のところへ巡ってくるって事もあるだろうっていう観点がなくて、実益性があるんだったら参加するけど、全然関係ない事だったらもう参加しないっていうような狭い視野というか、だからやっぱり人って1人では生きていけないから何かそういう話をする事の方が良いのではないかと思います。

高波委員 でも1人でしでしたら、もう余裕がないんです。

杉本委員 だからやっぱり長い目でみて、効果があまり出なくても、何かしないといけないっていう事なんでしょうね。

高波委員 やっぱりちょっと上の人が誘ってくれたら、まだ行けるって言う人がいます。

井上委員 市役所は断られるけど、大御所の人達のは断れないって言います。私の場合は社

長の部下なので利害関係があるはずという中で、言いやすい空間を作り過ぎて、そんな事まで言える仲が良いのか悪いのかわからないですけど、例えば、この間行ってきた島根県の方のケースでいうと、私が講師で行かせてもらったところは、こういう会合をやった後にコミュニケーションするんですけど、その会合が勉強会じゃなくって、広島でマルシェをしようというのを市役所が仕掛けて、マルシェをやろうという仕掛けに則した会で、自分たちの野菜をより高く売る為の見せ方講座っていうのを、わざわざ高知から有名なデザイナーを呼んで、参加したい人はそのマルシェで、組合を作って、すごくおしゃれなロゴを作って、そこにのってマルシェで出せるっていうのを地元でやって、しかも忙しくて広島に行けない人は代わりに市役所の方と時間がある方とが代表になって売ってきてくれるっていう企画をされてたんですけど、そういう自分のところも売れるっていう部分の企画と、名張市で何か独自の企画をたてて、自分のところの画風に入れるっていう事をやったら、みんな来てくれると思います。

委員長 今、おっしゃる様に出て行くっていう勇気も必要かも分かりませんね。

井上委員 それを取りまとめたのはJ Aさんなんですけど、名張市単独ではやっぱり限界があって、その代わりJ Aさんの中に入るという意見はあったりしてるみたいです。市内もそうですけど、そういう事を仕掛けるっていうのが、市役所と農業女子だけではなくて、やっぱりそこに大きな組織の人が絡んでないと難しい所があって、そこはやっぱりJ Aさんが入って取りまとめているっていうケースがほとんどです。

高波委員 名古屋の駅前で有機栽培をやっている人がいて、その人達が講習会も開いて、人を集めて、こんなもの持ってくるのかと思う様なものを持てきてくれました。前の日から泊まって行ってたんですけど、変わった人ばかりだなと思って見えました。

杉本委員 逆にそういう一匹狼の人がもっと自分の手法が分かる様なネタを提供したら若い子も寄って来てくれるっていうことですね。

高波委員 だからその人達が朝早くから、車から台車押してきて、駅前で売ってるんです。それが結構流行ってるんです。

井上委員 すごく売れると思うんです。そこでしか手に入らないので。

高波委員 それでそのお客さんが手伝ってくれるんです。子どもの頃から来てるので、みんなボランティアで手伝ってくれたり、片づけたりしてくれて、中々すごいなと思いました。

井上委員 ただ、例えば私が農作業で忙しいから高波さん行くんだったらついでにうちのも売ってきて下さいっていうのは言えないんです。やっぱり下から上なので。だからそれを仕組みとしてネットワークを持っていたりとか、人脈を持っていたりやる皆さんに、一生懸命やっていく意味をもっていない人達が、そこに渡せば売ってきてももらえるっていうものを作って頂けると、自分のメリットがあるならば持ってくるけれども、余裕がないからただの飲み会だけで終わってしまうと思います。

高波委員 やっぱり販売っていうのが一番肝心だから、そういうとこに来たら売れるって言うんですけど、やりかけた時は少ししかないからいいって言ってました。

井上委員 最初はスポットで、例えば三重テラスっていう所が東京にあるんですけど、そこで名張フェアをやろうとか、そういうのでひとつの例をあげるとしたら多分とれなばだと思えます。とれなばは温泉の横に即してますけど、地元の人達の中でやっているの、わざわざとれなばに行かなくても手に入る訳です。それだったら逆に東京とか名古屋に名張でもっと来る方がインパクトもあるし、そもそも消費の量が違います。逆に東京の人たちはそういった方の方がインパクトがあると思えます。

杉本委員 三重テラスの方も時々お声が掛かっているので、その時には出しに行ってるんですけど、農産物って言うのはどうなってますか？

事務局 農産物は伊賀米であるとか、伊賀牛とかの関係は振興協議会とかそういった形では行かして頂いたりしてるんですけど、名張の農産物として行かせてもらった事はないかもしれません。

高波委員 伊勢志摩サミットの時に私がこの三重テラスの二階で講演の募集をかけて、私の話を聞きに来る人東京にいるのかな？って、思いました。その時は、どんどの話と、結びの神の試食をしました。

井上委員 それがまた名張フェアとかっていう風な、あまり聞いた事のない所が来る方がかえってインパクトがあって良いですし、そこには忙しい人じゃなくても時間

がある人が代表で東京に行って、1人1人が東京の方に出すのは大変ですけど、代表で行ってもらってという風に決めて出し合うほうがいいと思います。

高波委員 今までも何回か三重テラスに売りにいったんですけどね。

岩寄委員 加工品も売ってましたよね。

事務局 加工品も売ってます。

井上委員 何度かお声掛けはあって、最初に三重テラスができる時に置きませんかという話があったんですけど、薬物野菜しようっていったら誰が買ってくれる？というリスクを誰が負ってくれるのってなった時に、何度もそういう話いっぱいあるんですけど、結局その生鮮野菜とかじゃがいももですけど、じゃあ東京に納品して後処分どうするのっていう所があります。

委員長 誰かが走って行かないと、誰もやらない。その走っていく中に井上さんが入ってるだろうと思いますけど。

井上委員 よくこちら側から走り過ぎない様にと注意を受けて、自重している所なんですけどね。

委員長 そうなんです。皆さん方と親しくなった時には良いと思います。まだ知らないっていう人の方が多いですよ？

井上委員 はい。それこそ名張農業女子プロジェクトっていうのを本当は立ち上げたくて仕方がないんですけど、全員の皆さんと親しくなるのはやっぱり難しいなと思いますし、私が何かを始めたとすると、それに対して嫌だなと思う事も必ず出てくると思うので、その辺りを平和的につて言うんだったら市役所さんから発信してもらう方が良いし、アグレッシブに実際に行動してつて言うんだったら、誰かが発信しないとイケないし、でもそうすると家庭もあるし、非常に難しいと思います。

委員長 農業女子つて言うんだったら、20代30代ぐらいから話が通じる人もいないんじゃないですか？60代70代の人だと、もう話が聞けないのも考えるけど、同世代の人ならいるんじゃないですか？

井上委員 つながり方がまずないんです。そういう人の名前も知らないし、市役所さんは多分把握してると思うんですけど、どこにどんな人が新規就農でいるのかも知らないし、難しいです。

高波委員 把握しきれない人もいますしね。

杉本委員 でも何人かは知ってるでしょ？

井上委員 鯨岡さんぐらいしか知らなくて、たまにY O Uで農業をやり始めましたとか見た事ありますけど、それぐらいで実際には知らないんです。ただ、女子でくくると男子の人がのれなくなるので私はどっちかっていうと、名張というレア感が、すごく東京、名古屋、大阪にはうけると思うので、女子でくくらなくても、そういうのを立ち上げて、名張販売組合ってようなのが、それがすごく良いんですよ。何とか組合っていった女の人がこうやって昼とかでも行って、そういう形で年配の方も若い方もこうやって一緒にしている様な、どんな形でも良いんですけど、みんなが忍者の格好してそういうので東京とか大阪行くと、ものすごい面白いしうけると思うんですよ。別の市町村はそういうのがあるので。

高波委員 さっき言ったY O Uにのってた子なんですけど、去年1年実習生で今年人から農地をかりてしてるんです。でも実際、名張の市場へ持って行ったら、半値しか付けてくれません。

井上委員 逆にうちに持って来てくれてます。うちの色んな販路があるので。

高波委員 だから市長に言って、市長室まで持って行く段取りして、持って行ってもらってるんです。そうしたらみんな集めとくからいつって決めて、市長のいる日に持ち合わせて行こうかって言ってもって行ってます。

井上委員 そういった意味でやっぱり仕組みっていうよりも何かコミュニティを作っていないといけないと思います。

委員長 この観光農園の見込み客数が徐々に減ってきてるんですよ。新たな流行で観光農園そのものがあちこちに出来てきてますよね。

杉本委員 もうどっちかという観光バスっていうのが減ってるっていう事です。ですから一旦、観光バスで今までやったら30人40人っていうのが入ってたんです

けど、そういう旅行が減って来てますので、その分落ちているということです。逆に個人の車でのお客さんっていうのは固い所があって、どっちかというと増える様な傾向かなという所も見えてるんですけど、今はそのちょうどそこからっていう感じです。

委員長 でも金持ちサークルとかもできて何年ですので、観光バスでどーんと来そうなんて少し、お安いっていう感じでやってたんですけど、個人客の観光バス使って国内旅行っていうのがほとんどですね。

高波委員 会社の慰安旅行とかで、青蓮寺湖のぶどう狩りに来たりとか、昔は子ども会で温泉行くとか、そんながありましたけど、この頃はそんなもないです。みんなが集まって行こうかっていうのが全体的にあって、そういう観光農園なんかでも今考えていかないといけないと思います。

杉本委員 ですから、基本的にその観光っていう所を考えていく時には、観光バスっていうのはもうターゲットが絞られてきます。福祉団体とか、そういった所が出てくる観光バス、それからインバウンドでやっていくっていう事になりますので、それが今ちょっと過渡期で、これから整理していかないといけないかなと思います。それでいうとまだ名張はもちこたえてる方っていうイメージなんですけど。

井上委員 ちょっと古いんですけど、一時期あの着地型観光というのがあって、従来は定置型といって、業者が企画して、ほとんどの利益を都会がもって行ってしまっただけで地元には残らないっていうのから、着地型観光にしましょうっていう風というのが一時期謳われていて、それは例えば名張でいったらメイハンさんとかが、地元のここでしか企画できないっていうものを企画して、私たちが儲かる様な形の落としどころをここで企画してそれを都会に投げるというものも多分本当は名張だったら出来るはずなんです。そうするとここに寄ってぶどうだけとか、赤目とか青蓮寺じゃなくって、ここでみんな平等にぐるっと回ってくれる企画をして、そこを最後はとれなばに集約して、そこに来る時だけ大量にいっぱい名張のものを野菜の日にしてたくさん買ってもらうっていう風にすると、多分もっと着地型のいっぱい名張にお金を落としてくれる企画がいっぱい出来るとか、アイデアとかもたくさんあるし、そういう企画をしろと言われてたら、こういうチームが集まったら出来るはずなんです。そういったものをぜひ企画出来るならばその延長線上で、その後飲み会っていうのを追加してくれて何かアイデアを出して、年に1個だけひとつのプロジェクトを1年後にやる計画でそれを

どうやるかっていうのを考えて、1回やって成功して、その後反省会してまた飲み会っていう風に、毎年何か企画していくのがいいと思います。

杉本委員 そういった着地型っていう事もこの夏に市の方でちょっと実験をしまして、それで着地型っていう意識をしてなかったんで少し失敗してしまった部分もあるんですけど、大阪まで迎えに行ってしまったっていうのがありまして、そうしたら向こうの人の都合に合わさないといけなかったんで、そこから乗れる人の都合になるので人が集まらなくて急遽何とか人を確保しようっていう事でやらせて頂いたらわずか12人でしたんですけど来て頂いて、それでもやろうっていう事でその後やって頂きました。にんじん堀りとかもやって頂いたり、8月の終わりやったんでクワガタムシもいない時期にやったんですけど、バッタでもものすごい反響があるっていうのが分かったとか、あまごつかみをしたんですけど、あまごよりも小魚の方が興味があったとか、そういった事もさせて頂きながら今年始めてます。それをもとにして、観光っていう部分でも農業との関わりっていうのが名張の場合はかなり有効だと思ってますので、もう時間の問題でまた皆さんに何かお願い出来ませんかっていうものを提案させて頂かないといけないかなと思わせてもらってます。すいません。長くなってしまいました。

委員長 いえいえ。他に何かございますでしょうか？実際にやらなきゃいけない事もきちんと出て来ましたね。

藤田委員 ちょっと質問なんですけど、41ページに食の安全・安心の推進という所で、消費者や実需者の信頼の確保って書いてあるんですけど、これは生産者の事なんでしょうかね？実需者ってどういう人かなと思ひまして。

委員長 レストランとかっていう事ですよね？

事務局 はい。そうです。お店屋さんとか業者さんとかっていう意味です。

委員長 別業者じゃなくて最終の消費者あるいはその消費者に料理を提供する人です。

高波委員 例えば、山田錦って酒米作ってるんですけど、その生産者と今度酒屋さんが実需者になって酒屋さんとの交流会を開いて、美味しいお酒を造るのにどうするのが良いですかとかそういう話し合いもしてます。その酒屋さんが実需者であるっていうことで、そこで加工されて一般の人は買うっていう感じですね。

岩寄委員　ここら辺だったらイオンとかそういう意味合いですね。

藤田委員　まあ業者さんみたいな感じですね。

高波委員　そうです。そういう形でその山田錦作ってる生産者と、酒屋さんを通じて、実際に酒仕込んでる人に毎年田んぼも見に行ってもらったりしてます。やっぱりそうしていかないとお酒造ってくれるのに、やっぱり出来るだけ生産者もいいお酒を造りたいと思ってますし、やっぱりそういう話し合いの中で、山田錦っていうのは大吟醸で1万円ぐらいするお酒なのでお米も高いです。そういうのをやっぱり酒屋さんとも毎年話し合いがあります。

藤田委員　先ほど何か農業と観光について、これから協力的にやっていきたいという風な話をしてたんですけど、色んな企画を自分たちが作ってそれをあのJTBとか阪急とかそういう所に持って行ってるんですか？

井上委員　それだったらほとんどJTBに持って行かれるので、そうではないです。

藤田委員　そしたら自分で企画をして、自分でネットか何かでお客さんを呼ぶんですか？

井上委員　大事なのはSNSを活用するっていう事なんですけど、ネットで例えば名張、タカラモノクラブとかっていう形で、フェイスブックでグループを立ち上げて、そこで例えば今日は田上さんのところ、今日は城出さんのところのブログとかを載せていって生産者が発信してそれを全国の人が会員になったら見る訳です。それである程度やっぱり集客が必要で、結局集客を東京の人とかJTBとかに任せると全部そこが持って行くので、まずは私たちが自分たちの努力で発信源を作って直接ソーシャルネットワークサービスの中の写真とかインスタグラムとかそういうのをミックスして、名張ファンを作るんです。それである程度何千人なった所でツアー開催します、限定20名様ですってあえて限定で作って置いて、そうやって仕掛けをどれだけ作っていくか、後はクラウドファンディングも利用したりとか、そういう形で自分たちで販路を作っていくっていう形をしないとそこでまた集客を楽すると全部そこがもっていってしまうんです。それとリストも渡してくれないのでやっぱりこれから来た人、1回目は来てもその人たちを120%満足させたら、その人たちが広告主になって名張に行ったらめっちゃおもしろかった、めっちゃおいしかった、お酒も飲めるみたいで地元の人と酔っぱらって仲良くなってってなったら、また来年友達連れて行

こうかっていう、それだけそのカスタマーサティスファクションを作れるかっていうのでやっていけばすごく強いと思います。

藤田委員 その消費者の立場からしたら、ネットで載せるのはネットに出してるその本体が信用できるかどうかが問題です。今すごい詐欺とか多いので、名張市観光課主催とかそういう風な文言が出るんだったら良いんですけど。

井上委員 主催だと制限があって出来る事が少ないんです。

藤田委員 でも訳の分からないネットのサイトでは、やっぱり信用しないと思います。

井上委員 なので私たちがそうやって作って行って、昔の良い所の散策じゃないんですけど、第三者機関っていうのがあって、そこに名張が協賛してるとか、信用のある公的なものとか、例えば J A も支援してますっていう風なバナーとかを置いてちゃんとすればそこは大丈夫なんです。その信用っていうのはそんなに難しい事じゃないと思います。

杉本委員 消費者協さんの立場で言ってくれてますので、だから逆に悪用されてしまったらだめなので。

高波委員 逆に送ってもお金くれないとか、そういうのもあるのでそれが中々難しいところだと思います。

杉本部長 だから消費者協さんの立場としてはそういう非が 1 回も出さない様に組み立ててもらいたいっていうお話です。

高波委員 だから城出さんのぶどうの直売だったら、目の前でお金をもらうからいいけどお米 10 個送ってもお金振り込んでくれないとかそんなもたまにあります。

杉本委員 そういう被害は 1 件も出さないというのが名張市の目標です。

井上委員 なので通販は難しいんですけど、逆にだからクレジットとかだと良いんですけど、そういうちゃんとした月々のお金を払わなきゃいけないんですけども、そういうクラウドファインディングも 1 枚入っていて、全部お金の回収とかはそこがやってくれるので、現金のやり取りをネットでしてしまうと、しかも後払いになんかしてしまったらとんでもない話なので、そこは気を遣うのかなと

思います。テイメントの会社も人気で安い所は粗悪だし、クラウドテイメントっていう非常に有名な大きな所なんですけど、その代わりお金が毎月入ってくるという部分はあるんですけど、今回着地型観光とか逆に私たちが東京行って何かするというのも大丈夫なんです。

杉本委員 観光の場合やったら観光協会のホームページからたどり着くとか、そういうやり方であれば、信用がありますよね。

藤田委員 それでも今外国人の方がすごく来てるし、大阪にたくさん来てるのでちょっと足を伸ばすと赤目四十八滝とか室生寺とか、ここは良い所があるので、そういうのはどんどん観光のもうひとつ何かセットしたものを広めれば、すごいお金を持ってきます。伊賀の方は忍者ですごいですよ。

杉本委員 産業部としましては観光っていう所でも、準備をしてますので頑張りたいと思います。

委員長 伊賀に負けないように。伊賀の方がインバウンドが増えてるんですかね？

杉本委員 増えてます。ただ伊賀市の皆さんのご意見としては、それが実際に来て頂いてるんですけど、売上げの所に繋がってないっていう様な事も仰ってるんです。それで売上げ落ちてるっていう話が出てきたりしてるんですけど、これは噂話なので私達もあんまりしたらだめだと思ってるんですけど、確かに増えてるのは増えてるんです。それで少し地味なんですけど、今名張が取り組んでるのは忍者については、ずーっと勉強していきますとどうしても忍者のルーツっていうのは名張に来てしまうんです。ですから忍者を研究された方達については、名張の方へ来て頂くっていう方向で今現在は準備もさせて頂いてるんです。

井上委員 ただ忍者で勝負するんじゃなくて農業のクオリティで勝負したいですし、農業というか本当に伊賀米って言ってるけれど、実は名張米が1番美味しいものですとか、本当にそういう多品目でこだわりの農家さんが多いので、やっぱりクオリティが高いまち名張っていう事で、その農産物を買いに来る観光のお客さんっていうのを、ついでにでも良いんですけど、忍者ありきだと農産物の売り上げっていう部分の見込みがどうなのかなと思うんです。

高波委員 伊賀へ来たからって農産物は買わないですよ。

井上委員 そうなんです。だからやっぱり本当に美味しいものを、この間もぶどうとか親戚が来た時に買って帰ったんですけど感動して帰ったんです。そのぶどうっていうイメージがなかったらしいんですけど、悪いイメージというか、毒ぶどうっていうのを今だに思う人がいるんですけど、食べてびっくりしてこんな美味しい所なんやって言って、すごくびっくりして帰ったんです。だからもので勝負出来るし、すごく良いものもたくさんありますし、お米も送ったらすごく喜ばれるんです。

杉本委員 さっき言ったこの概要版の説明、先にさせてもらった方がいいんじゃないですか？

事務局 あの説明って言う程でもないんですけど、ご報告だけさせていただきます。

事務局 説明

事務局 当然本文はご提示させて頂くんですけど、ご説明はこの概要版で説明させて頂く形です。

委員長 このシカの肉って言うのは結構食用にまわるんですか？

事務局 実はイノシシや鹿の肉っていうのはきちんとしたさばく場所がないと、皆さんのお手元というか販売するっていう事が出来ないんです。それで名張には今その作業所というかさばける場所が一箇所だけございます。そちらの方にいった分だけ、牛や豚の様に飼ってる物を屠殺してっていう様な形でいくと、期間も短い時間帯でさばく事ができるんですけど、山で走ってるものでそれをさばこうとすると、そこまでの運搬に時間がかかったりとか色んな所の規制がかかってまいります。飼ってるイノシシであるとかっていうのはまた別の話になるんですけど、基本的には山を走ってるものって考えた時に、どうしてもその捕ってから運べる場所までの時間帯っていうのが非常に難しくなってきたて、それをクリアしたものだけが市場に出回るという事になってまいりますので、名張では今その作業所を持って頂いてるのは一箇所だけという事になってまして、出回ってるようでもあまり多くないというか非常に少ないという風には考えます。

委員長 一箇所でも中々集まって来ないってことですか。

事務局 そうですね。あの集まる量としては一定量あるように聞いてるんですけど、施設自体が大きくありませんので、1日に何度も何度も処分出来るっていう施設がありませんので。

高波委員 大体2時間以内に処理しないと販売自体が出来ないんです。

事務局 解体所まで持って行かないといけないという事ですから、猟をしたら撃つものと運ぶものと作らないとだめな訳です。

委員長 撃つ人と運ぶ人こう顔も合わさないし、連携してないってことですね。

事務局 連携してないです。

高波委員 それで僕もあちこち行ったらよく言うんですけど、獣害多いので、猟師さんに、1頭1万円とか2万円とかでお金を持って行く人もいて、そこでもお金をもらえるというような形にしていかないと、獣害は減らないと思います。猟師も高齢化して行って、もう嫌々行ってます。それで他へ行くともう今、女の子とか若い子で構成して行ってる場合があります。前に視察へ行ったところは、だんだん大きくなって1日何トンも出来る様に施設を大きくして行ってました。やっぱりそういう風に持って行かないとどうしても獣害が減らないと思います。捕ってうつだけではなくて、命あるものだしみんなで食べていけたらと思います。

委員長 この辺りの施策はどうですか？

事務局 そうですね。今現在、このマスタープランの中でも示させて頂いてて、捕獲数っていうのを一応目標数値として定めさせて頂きました。一応倍の数を捕まえていこうという風に示させて頂いた所でございまして、農作物等におこしてる被害自体を減少させる為の手段として、目標値として定めさせて頂いてる所ではございますが、いざその捕ったものを次のステップとして食べていこうっていう事に関しましては、実はこの中には謳わせて頂いてございませんでして、その市町単位で取り組んでいる市町も実はたくさんあるんです。そういう作業所っていう物を建ててやっている所もありますが、中々皆さんどの市町も苦戦されている様でございまして、今、名張市では名張市をあげてそういう施設を建てていこうという所までは至っていないっていうような状況でございます。

高波委員 だからそういう施設で処理したり、どこかで食べれる様な施設がいいと思いま

す。今の県の美術館の食堂で鹿のジビエの人がいて、あそこは美味しいって聞きます。

事務局 美味しいですよ。鹿もイノシシも非常に美味しいですよ。

高波委員 大鹿ぐらいいたら骨もありますよ。

井上委員 奥田さんの所がNPOを立ち上げたって噂で聞いたんですけど。

高波委員 奥田さんも撃ちに行くので、あそこにもう檻を何個も仕掛けて、近所の人も行ってます。

事務局 三重県の取り組みでも例えばココイチさんと提携してジビエカレーっていうのを販売する取り組みをしたりとかっていう事で、その鹿やイノシシの肉の消費拡大、ジビエクーポンっていうのが付いてきて、そのジビエに関する商品だったらそれを使えるっていう様な、そういう風な事をやられたりとかっていう事で、これは三重県の施策で取り組んで頂いた事業ですけど、そういった取り組みがあります。

井上委員 何か申請して特区になってるか、鈴木知事がすごくジビエに力入れてるって聞いたんですけど、他の県とは違って何か特別な許可をもらってるっていうのは聞いたんですけど、特別ではないんですかね？

石田委員 その食べられるお店を紹介をしたりとか、そういう風な取り組みとかを合わせ技でやってます。それで捕るやつについても先ほど室長おっしゃって頂いた様な、処理まで含めた体系的な事業という形でするのがいいと思います。大台町とかあちらの方では進めています。

井上委員 ちなみに苦戦しているというのはどういう意味で苦戦しているんですか？商品にするのに苦戦しているのか、売るのに苦戦しているのか。

事務局 売るのに苦戦している様ですね。鳥取県なんかは非常に成功してるっていう風にも聞いているんですけど、非常に高額でシシ肉なんかは取引されるので、成功してるという市町の事例を聞いたこともあります。ただ長野県であるとか色々な所の事例を見させていただきますと、中々続かないというか、処理の時間が決まってるので、ちょっと山奥行ったら、出すのに時間かかってしまったらだめで

すから、もの自体も中々安定して提供出来ないし、お客さんもつきにくいていう事になってくるのかなと思います。

高波委員 それでこれは檻ばかりしてるので、里の方にずっと檻を仕掛けて、それで近所の人にばらしてもらってるんです。それで入ったら電話かかってきて取りに来てっていう感じです。

井上委員 その処理するタイミングに合わせれるっていうことですね。

高波委員 だから、檻だが入ってるから、それだったら1人でも行けるんです。でも山の中だったら1人で行けないので、5人行って捕れないとか、檻が一番確実で良いつて言って、生きてるから完璧だし、それからそういうジビエになったりとか、東京の方はそういう風なんだそうです。

井上委員 やっぱりここで消費ではなくて、消費するのは東京、名古屋、大阪のこだわりの三ツ星のレストランに対して、クオリティの高い処理と保存方法でおろしますよっていう形だと定着できますけど、そこで捕ったやつをみんなで食べないかとかそれではビジネスとしては難しいと思います。

高波委員 だからそういうので行き詰ってしまうんです。

井上委員 もしビジネスとしてやるならば、やっぱりちゃんとそういう部会を立ち上げてもらいたいです。JAさんはジビエやって頂いてるんですか？

岩寄委員 やってません。

井上委員 そうですか。だとしても、そういうルートは絶対あるはずなので、そういう所に乗せて営業してもらうのがいいと思います。

高波委員 たくさんの数の檻を置いて、みんなにしてもらったらいいいと思います。

井上委員 そしたら名張市に予算で檻を増やして頂くという事ですね。

事務局 檻はだいぶ増やさせてはもらってるんですけど、捕ろうと思ったらやっぱり檻でも難しいです。檻も中々難しくて、思った通り捕獲ができるかどうかっていうのは行ってみないと分からないです。

委員長 今の話を聞いてると、倍増するっていう計画のそれを裏付ける方法はお話を聞いている限り私は感じませんでした。捕るにしても現状と10年先との裏付けが感じられませんでした。

事務局 根拠として、狩猟免許自体は年々増えてはきてるんですけど、ただ銃が増えないっていうのはあります。今おっしゃったみたいなその檻、杭っていうのがなぜっていう事であるならば、こっちの捕獲者は全然増えていってます。そういった所から狩猟者自体は増えてくるのかなと思います。捕れる人は増えていくっていう傾向にあります。

委員長 捕れる人は増えてくるっていう事で倍増計画立てた訳ですか？

杉本委員 鹿とかイノシシの数は着実に増加傾向にある中で捕まえる数っていうのは、被害が出てきますのでどうしても増えざるを得ないと。ですから捕まえるところまでは行くんですけど、それがジビエっていう所までたどり着くかどうかっていうのは別の話になる訳です。

事務局 本当は繋げないっていう事ですけどね。

杉本委員 僕、罟の免許取りました。

高波委員 鉄砲もしないといけませんね。最近でも外へ行ったら若い女の子も来て鉄砲使ってますよ。この頃市役所の職員でも、獣害の時にずっと行けるじゃないかと思うんです。

事務局 鉄砲の免許までは取れてもそれから次の所持許可っていうのは警察の許可を取らないといけないんです。実は市役所でも鉄砲持ってる人が何人かいます。

井上委員 ただ現実的な事を考えるとサステナブルなのかどうかっていうのは、やっぱり一番現実的なのはビジネス化する事が一番だと思っていて、ただイノシシやシカが増えるから、だから倍増しましたっていう事であれば、ニアリーイコール名張市の税収がそこに全部持っていかれる。でもそれ以外にも人口が減って行く事が見込まれたら、唯一のサステナブルな方法は、それをいかにしてビジネスとして乗せるかっていうか、その人も食べていけないといけないから、一番加速化するのはそれをジビエで何かとかえて、そういう捕ったものをちゃんと

処理して命を頂くっていう、食育とかそういう東京に流すルートをつくる五ヵ年計画を立てて、せめて儲からなくてもトントンにしなければ、多分そのサステナブルな事業とは言えない。

杉本委員 この問題については、その部分以前の所でやっぱり議論しないといけないと思います。ですから、こういう猟する事自体に反対する人もいる中でやってるので、今の時点でこれを一気に事業化するっていう事についてはちょっと考えないといけない。

井上委員 一気にじゃなくて、要はこれじゃなくても例えば檻とかで捕獲だけを考えるのではなくって、多分委員長がおっしゃってる部分っていうのは処理までっていうことでまわしていくという事なので、別にいきなりビジネスじゃなくて構築してからってことです。

委員長 私が言ってるのは増やすんだったら黙ってて増えるものではないから、その辺の裏付けをしてくださいっていうことで、聞いている限りではなかった。

岩寄委員 先ほどのその捕獲っていう部分からすると、以前そういった部分の会合か何かに行かせてもらったら、ただ単純に檻を置くじゃなくて、今幸いにもこの名張市も伊賀市もそうですけど、フェンス張ってくれてますよね。フェンスのそばへ檻を置く事によってフェンスのそばを行き来すると、どこかあいてるところかなって、それにそってその檻を付ければ結構確率は高くなるっていうような話とか、エサの位置の高さ、シカの場合は高い位置へ置くとか、イノシシの場合は若干下の方へ置くとか、そんな部分を先生はおっしゃってくれてると思います。

委員長 だから聞いている限り悲観的にしか聞こえなかった。

事務局 一応施策といいましても、先ほど副委員長が言って頂いた様に、狩猟者の確保、育成していきますっていう事を、一応書かせてもらってました。それを起点に今の所は増やしていくという様な形でいきたいと思ってます。

岩寄委員 奈良の鹿でももう殺してもいいような時代ですからね。

杉本委員 この日曜日も職員が2回ぐらい行ってるんです。網とかに引っかかってしまって、それで逃げられなくなってもがくので、何とかしてくれっていう連絡が市役

所へ入ってきたら緊急連絡網があってそれで連絡が入るんです。そしたらその時はもう嫌って言ってられないのでやってるっていうのが現実です。

委員長 この農林資源室にいる人は免許をとって欲しいですね。

杉本委員 それでこの4月に産業部へ来させていただいて、免許取得させていただきました。

石田委員 最終手段は市役所の皆さんにお世話になるとしても、出来ればそういう獣害対策はせっかくフェンスを張ってあるので、その集落とか小字でみんなでフェンスの手入れも含めて、また個人の見張りも含めてやって頂く様な体制ができれば、イノシシとかも捕ってもらった後にみんなでシカの直売所へ出せる様な体制とかを作って頂く、そんなんをできないかっていうので集落へ入らせて頂いて一緒に進めていくっていう様な形でできたらいいと思います。何かそんなんをひとつどこでもやって行ったら、後のこの通常の田んぼをこれからどうしたら良いのかっていう話にも繋がっていくのかなと思います。そういう所をひとつでもふたつでもってという様な流れが見えると良いかなと思います。

事務局 今、実は集落で代表で捕りに行くっていう集落が増えて来ました。区で結構実は狩猟の免許捕ろうと思ったらお金も掛かるもので、その負担は区が出ますっていう事で、その代わり頑張ってる区の被害なくす様に頑張ってる捕れよという様な使命を受けて、捕りに行ってくれるっていう人が、今、非常に増えて来ました。そういった所もあって、免許自体をお持ちの方っていうのは年々増えてきているという状況にあるという事です。

杉本委員 現実の問題として、私もその1人なんですけど、お金は出してくれませんでしたけど、免許をとってきて報告しに行ったら、するなよと言われました。という事は村ぐるみでやろうと思っても手伝い出来る人がいないっていう事です。1人では出来ませんので、誰か手伝いが必要だから村でやるとしたら、みんな怖いから勝手にするなよっていう事を言われました。だから現実としては、免許をとってこいと言われたからとってきたのに、とりましたって言ったらするなって言われました。それが実際の村の実情です。

委員長 色々ご意見頂きましたけど、前回も色々出したりして頂いて、ちゃんと議事録の中に入ってますか？

事務局 入ってます。

委員長 実行するという意見も頂きまして、プランニングではなくて実行する事がやっぱり重要です。プランニングという意味ではこれは立派なものなので、これで今回の庁内会議で説明して頂くという事でよろしいでしょうか？それでは、そういうことで進めたいと思います。今の計画では次の会議は1月10日です。今後のスケジュールをお願いします。

事務局 今後のスケジュールなんですけれども、10月23日に、市役所内の部長級の会議の庁議の方にのせます。それから11月10日に先ほど言って頂きましたように、産業建設委員会で説明をさせて頂いた後に市民の方からご意見を頂くパブリックコメントっていう事で11月20日から1か月間っていう事で意見を徴収させて頂きます。その後、頂いた意見をもとに、内容を修正する部分も出てくるかも分からないんですけれども、そういった結果をふまえて、また来年の1月10日に第5回の策定委員会という事で、マスタープランの結果等々のご報告をさせて頂きながら、マスタープランの原案という事で確定させて頂くという事になります。その後また同じように産業建設委員会等々議会の方に、はかっていくというような流れになっております。ですので、また1月10日の方の予定を皆さん方おさえておいて頂きたいという事で思っております。以上です。

委員長 今の説明の通りです。何かございますでしょうか？一応こういうスケジュールでいくということでご審議頂きました。ありがとうございます。

事務局 本日はどうもお忙しい中、お集まり頂きましてありがとうございます。非常に詳細なご意見も頂戴しましたので、委員長の方からも聞いた意見についてはやる事が大事だという事も聞かせて頂いてございます。肝に銘じまして事業を進めて行きたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(9 1 : 4 0 : 2 9)